

1. 校長挨拶
2. 委員長挨拶
3. 協議（司会：委員長）

（1）平成29年度学校評価(案)について

I 「確かな学力の育成と第一志望の進路実現」について

- ① 今年から新たに導入した、各授業の初めに授業の目標を提示することについて、それを意識している教員が目標の60%を大きく超えている。
- ② 生徒の授業への集中度を高めることについて、生徒のアンケート結果から80%を超えている。
- ③ ベル始業も徹底できている。
- ④ アクティブラーニングの研究授業を実施した。次年度も続けたい。
- ⑤ ICTを利用した授業を行った教員は58%と目標を大きく上回った。
昨年度より短焦点のプロジェクターを2台追加。来年度は台数の関係で利用できない教員がいる現状の改善に努めたい
- ⑥ 「授業の工夫」の肯定率は次年度を下回る。
- ⑦ 「興味関心、知識技能」に係る授業アンケート結果から満足度は昨年度を大きく上回る。
- ⑧ 進学にむけた講習・補習について教員の評価が昨年度より下回る。
- ⑨ 模擬試験の受験者数も昨年を大きく上回る。
- ⑩ アクティブコースに大学教授等の外部講師の支援も受け、高度で深化した内容を授業に取り入れることができた。次年度も内容の充実に努めたい。

II 「豊かな社会性及びたくましく生きる力の育成」について

- ① 1年生の部活動加入率は88%で目標を十分に達成できた。
- ② 学校教育自己診断で「生徒会活動が活発」との回答が85%と昨年度を上回った。
- ③ 毎日登校時だけでなく下校時も全教員の当番制で校外に出て登下校安全指導を行った。次年度も生徒の安全確保と近隣に迷惑をかけないように登下校指導に取り組みたい。
- ④ 遅刻者にはその都度注意喚起を行い、その結果1/12現在、遅刻者数は昨年度比10%減少。
次年度も遅刻指導を徹底し、遅刻者減少に取り組みたい。
- ⑤ 教職員の挨拶運動の結果、積極的に挨拶をする生徒が多くみられるようになった。
挨拶習慣のさらなる定着を図りたい。
- ⑥ 校内美化についての学校教育自己診断の肯定率は78%に留まり、目標の80%には届かなかったが、日常の清掃指導にはしっかり取り組むことができている。
- ⑦ 海外の生徒との交流について、次年度はモンゴルとのテレビ会議を実施する予定。

III 「生徒の力をしっかり伸ばす学校力の向上」

- ① 防災訓練を2回実施したが、次年度は実施方法等をさらに工夫し、充実に努めたい。
- ② 次年度の「学校経営推進費」の獲得を視野にICTを活用した学力向上方策について現在計画中である。
- ③ 学校見学会・体験入学を実施した。次年度は、より効果的な広報活動となるようにしたい。

【質疑応答】

- 委：講習・補習の実施率の低下について、どう思われているか。
- 学：何回講習を行ったかのデータではない。教員が必要と判断したものに対して講習を行っている。
- 委：学びワンポイントコーナーとはどんなものか。

- 学：生徒が少しでも興味・関心をもてるような内容（授業以外の内容も）を階段踊り場に設置したホワイトボードに掲示し、生徒の知識欲を刺激しようとしている。
- 委：毎日の教員での登校指導・下校指導を行っていることは良いことである。続けてほしい。
- 委：「教職員が学校運営に積極的に意見を述べる」肯定率は上昇傾向にはあるが、50%に達していないというのはいかがなものか。
- 学：校長が示した方針に対しての意見の有無のデータであるので、必ずしも肯定率が低いから意見が反映されていないということではない。

(2) 平成30年度学校経営計画(案)について

【質疑応答】

- 委：ICT機器の増加については、予算の話で教育の話ではないのではないかと。
- 学：教育委員会に対して、本校でICTを活用してどのような授業を行いたいかを示して、ICT機器の導入をお願いするということである。
- 委：ただICT機器を増加するだけでなく、ICT機器をどのように活用するかが大事であると思う。
- 委：海外の生徒との交流について、モンゴルとの交流とあるが、なぜモンゴルなのか。
- 学：今年度、本校の教員がモンゴルに派遣研修に行っているため、モンゴルの生徒との交流を考えている。

(3) 学校教育自己診断について

【意見】

- 委：質問項目がたくさんあって、答える方も大変だと思う。もう少し質問内容が少なくてもいいのでは。

(4) 校則等について

生徒手帳の内容の見直しを行っている。服装については特にパーカー・トレーナーの着用を無くす方向で考えている。

【質疑応答】

- 委：パーカー・トレーナーを無くし、セーター・カーディガン・ベストの着用は許可するということだが、現在の状況を見てもいたって普通の服装のように感じる。
- 学：現在パーカー・トレーナーの着用を認めているが、色や柄が派手であったりカッターシャツの襟が完全に隠れてしまうものもあり、一見私服に見えてしまっている。学生服として適正な着こなしを求める観点から、服装規定を若干変更したいと考えている。変更後も柔軟性は残しており、いたって普通の着こなし方であると思う。
- 委：学生服の上には防寒具の着用は可能であるか。
- 学：登下校時の着用を認めている。これは現在も同じ。
- 委：遅刻指導が厳しく、体調不良で遅刻するくらいなら欠席したほうがよいと子どもから聞いたことがある。
- 学：どんな遅刻でも同じ指導している訳ではなく、遅刻をした理由を聞きそれに応じて適切な対応をしている。指導が必要と判断した場合は指導をしている。

4. 36期生進路状況中間報告

5. 校長より謝辞